



2026 年 9 月 10 日

各 位

会 社 名 abc 株式会社
代表者名 代表取締役社長 松田 元
(コード：8783、スタンダード市場)
問合せ先 経営企画部 部長 谷井 篤史
<https://www.abc.co.jp/form/corp/>

**(開示事項の経過) フィジカル AI ロボット事業における国内検証完了、
海外における技術・商談現地調査の実施及び実用化・商業展開フェーズ移行に関するお知らせ**

当社は、2026 年 7 月 14 日付適時開示「(開示事項の経過) フィジカル AI ロボット事業の推進状況に関するお知らせ」において、ヒューマノイドロボット実機「Galbot G1」の受領および社内デモ環境での初期検証開始について公表いたしました。

今般、国内環境における基本検証の完了に加え、海外現地での技術調査および顧客同行商談を実施し、実用化・商業展開フェーズへ移行いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 国内検証完了及び海外現地調査・パートナー交渉の成果

当社及び戦略的パートナーである株式会社ビッグハンズ（以下「ビッグハンズ」といいます。）は、導入した「Galbot G1」実機を用いて、国内の作業環境を想定した基本動作制御、安全基準への適合性、並びに各種産業用作業シミュレーションを完了いたしました。

さらに、本事業の実用化および日本市場における本格的な供給・導入支援体制を構築するため、2026 年 8 月に中国（青島市、煙台市、北京市等）において大規模技術展示会（World Robot Conference 2026 等）の視察や現地開発拠点・データ訓練施設の調査を実施いたしました。

本海外視察におきましては、国内大手ガラス・素材メーカーおよび大手総合機械商社の担当者と現地同行のもと開発元（Galbot 北京本社）等を訪問し、以下のとおり具体的な導入・商談に向けた技術交流・協議を行いました。

(1) 素材・製造工場向け特殊ワーク（透明・高反射部材）の認識・把持検証

国内大手素材メーカーの実際の製造工場における実証実験（PoC）実施に向け、光の反射や透明度が課題となるガラス等の透明物体に対する光学認識・力制御把持に関する高度な技術協議を実施し、現場導入に向けた要件の具体化を完了いたしました。

(2) ビッグハンズ及び大手商社との連携による販売・レンタル・保守・導入支援体制の構築

当社は、ビッグハンズ及び大手総合機械商社との連携により、ロボット本体の購入・導入にとどまらず、日本国内の製造・物流企業向け販売代理、レンタル（RaaS）、システムインテグレーション、保守メンテナンス、及び導入パッケージを一体とした商業展開体制の構築に向けた協議を推進いたしました。

2. 商業展開フェーズにおける今後のアプローチ

単なる概念実証（PoC）にとどまらず、早期の収益化を図るべく、以下のステップにて現場実装および商業展開を加速させてまいります。

① 導入検討企業への実証フィールド展開および個別デモの本格化

製造工場や物流倉庫等を保有する主要パートナー企業・顧客に対し、実際の作業現場における実証実験（PoC）および個別カスタマイズ稼働テストを順次実施いたします。

② サービス型ロボティクス（RaaS）等の商業提供モデルの確立

当社は、ビッグハンズと連携し、企業の初期導入ハードルを下げ、早期のストック収益を確立するため、機器レンタル・リース、保守運用、二次開発ソフトの提供を一体とした「RaaS」モデルの提案を開始いたします。導入に伴う技術対応、二次開発及び保守運用については、ビッグハンズの技術・導入支援体制を活用してまいります。

3. 今後の見通し

当社グループは、2026年8月をもちまして暗号資産ディーリング事業からの完全撤退および保有暗号資産の処分・決済を完了いたしました。

今後は、財務構造の健全化と併せ、成長性と実体性の高い事業へ経営資源（人材・資金・アライアンス）を集中的に投下していく予定です。

本フィジカル AI ロボット事業については「新生 abc」における中核成長エンジンとして位置付け、深刻化する労働力不足の解消と新たな収益基盤の早期構築を図っていくものと考えております。

なお、本件に伴う 2027 年 8 月期以降の業績における収益寄与につきましては、顧客企業との契約締結および本格運用の開始に伴い、順次業績予想等へ織り込んでまいります。

今後、開示すべき特記事項および具体的な契約締結等が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上